

第2回堺市堺区教育・健全育成会議での主な意見  
 (親支援・地域支援関連事業の現状から見られる課題)

課 題	具体的な事例	該当する事業名等
子ども会への加入率が低い。	堺市子ども会育成協議会加入者数(小学生加入率) 24,754人(指導者、幼児含む) [全市 小学生] 15,423人(35.6%) [堺区 小学生] 2,035人(31.1%)	堺市子ども会育成協議会 (校区連合会数 85) (単位子ども会数 489)
子どもの参加率というのは、親がどのように活動にかかわるかによって左右される。	・子どもは参加したがっていても、子ども会の活動にかかわれば親である自分が何か役をしなければいけないという理由で、子どもを参加させないということがある。	・子ども会 ・各種スポーツ少年団 他
親が持つ、子どもを“預ける”という感覚 (“預ける”のではなく、子どもを“送り出す” という感覚が必要)	・キャンプ等に子どもを‘預け’、親は遊びに行くこともある。 ・学校に子どもを行かせればそれで教育は終わりと思ってしまう親がいる。 (義務教育を果たせば親の教育義務は終わったような感覚に陥る) ➡虐待につながる可能性を秘めている	・子ども対象のキャンプ 他
支援のあり方	①親を説教する学びの場ではなく、親が自分自身と向き合い何か学ぶことによって、優しさが刻まれ、心が軽くなるような学びの場が必要。 (このようにしなければいけないと命令するのではなく、親の話を聞いてあげたり、相談に乗ってあげたりする場が必要) ②プッシュの支援ではなく、プルの支援が必要。 (相手のニーズを考えないで主催者側の考え方を押しつけるのではなく、相手の気持ちを聞いたり、来てもらえるように促したりするような支援が必要) ③子どもたちの心の声を聴くことも必要。	
支援の対象と内容(方法)	①本当に来てほしい人(支援が必要な人)は参加していないのではないか。 ・家庭教育支援事業(家庭教育サポート講座)の開催時間が平日の午前9時から午後5時半までの間の2時間となっており、共働きの親が参加できない時間帯に設定されている。 ・本当に支援が必要な人が講演を聞きに来ているのか疑問。 ②子育てや教育に熱心な親とそうでない親、2つの層への支援 ③貧困世帯への支援 ④心の支援(悩みを聞いてもらいたい)と人的な支援(学童保育の時間延長等)	・家庭教育支援事業 (家庭教育サポート講座) など、各種講座や講演会 他
組織的な課題 (部署同士の連携が必要)	・各種事業が様々な部署で実施されているため、関連性がない場合は、支援ができていないところが出てくるということがある。	